



2020 年 10 月 28 日

報道関係者各位

参天製薬株式会社
NPO 法人日本ブラインドサッカー協会
一般財団法人インターナショナル・ブラインドフットボール・ファウンデーション

**Santen, JBFA, IBF Foundation が「インクルージョン社会」の実現に向け
10 年の長期パートナーシップ契約を締結
～競技団体経営の長期的な安定と、「混ざり合う社会」の早期具現化を目指す革新的な試み～**

参天製薬株式会社(本社:大阪市、以下 Santen)、NPO 法人日本ブラインドサッカー協会(東京都新宿区、以下、JBFA)と、一般財団法人インターナショナル・ブラインドフットボール・ファウンデーション(東京都新宿区、以下、IBF Foundation)は、「混ざり合う社会」の早期の具現化を目的に、三者間で 10 年間の長期パートナーシップ契約を締結したことをお知らせします。

●本パートナーシップ契約締結の背景

JBFA、および IBF Foundation は、視覚障がい者の QOL (Quality of Life:生活の質)の向上に向け各々の団体でさまざまな取り組みを展開しています。2019 年には、ブラインドサッカーの普及、目に対する社会の関心を高め、人々の QOL 向上への貢献、さらには障がいの有無に関わらず、全ての人が生きがいを持てる社会づくりを目的に、Santen は「IBSA ブラインドサッカーアジア選手権 2019」を協働で支援しました。

また、Santen にとって本年は創業 130 周年という節目の年であり、新長期ビジョンを策定し、理想の世界である WORLD VISION～Happiness with Vision～を実現するために、3 つの長期的な戦略を掲げました。JBFA および IBF Foundation との連携は、この 3 つの戦略の 1 つ「Inclusion」における重要な施策と位置付けています。

こうした背景から、三者は新たに、グローバル規模での「目」にまつわるさまざまな課題を解決すべく、2030 年に向けた長期パートナーシップを構築することにいたしました。

加えて、パラスポーツの意義が以前より理解され、今後の社会に必要とされている今、ブラインドサッカーの競技団体の運営を長期的にサポートすることで、ブラインドサッカーを通じた社会への価値提供を継続的に推進していくことが可能となります。

●共通ビジョン:”見える”と”見えない”の壁を溶かし、社会を誰もが活躍できる舞台にする。

晴眼者と視覚障がい者の間では、お互いがお互いを深く理解できていないことで生じるさまざまな課題があります。今回の長期パートナーシップ契約締結により、Santen、JBFA、および IBF Foundation は、ブラインドサッカーを出発点とし、視覚障がい者にとってのスポーツ、新たな職業、イノベーションへの参画など、視覚に障がいのある方の多様な社会参画への架け橋となることを目指し、次のイラストのとおり共通のビジョンを掲げました。



三者は、これらの共通ビジョンのもと、

- ① 共体験でそれぞれの個性や強みを理解する
- ② 見えるに関するイノベーションを創出する
- ③ 視覚障がい者の QOL を向上する

という3つのゴールを設定し、ブラインドサッカーというフィールドを出発点に、視覚障がい者および晴眼者がお互いの強みを理解し合えるよう、数々のプラットフォームを提供していきます。それにより、視覚障がいの有無にかかわらず、お互いの強みを尊重し合い、ともに活躍できる持続的なインクルージョン社会の実現を目指します。

なお、私たちは、国連の定めた持続可能な開発目標(SDGs)の「誰も置き去りにしない」という理念に賛同し、今回の長期パートナーシップによる取り組みを通じて、SDGsの17の開発目標においても貢献していきたいと考えています。

プロジェクト概要資料(日本語): <https://jector.jp/dl/de8J3Sce86RZK3ZwWsRUYnYg>

参天製薬株式会社 代表取締役社長兼 CEO 谷内樹生のコメント

視覚障がいを取り巻く課題はたくさんあります。見えることが前提に世界がつくられている、就労の選択肢が少ない、無意識下のバイアスが消えないなど。今回の長期パートナーシップ契約の締結は、私たちが目指す理想の世界 WORLD VISION の具現化に向けた一歩であるとも言えます。ブラインドサッカーというフィールドを出発点として、社会課題を解決し、視覚障がい者も健常者も当たり前に関わり合い、同じように生活できる世界を創造してまいります。そして世界中に、このパートナーシップの輪を広げていきたいと考えています。

特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会 理事長 塩嶋史郎のコメント

Santen の皆さんには、これまでも、各種国際大会のスポンサーをはじめ、「お助け相談窓口」へのご協力など、さまざまな形でご支援いただいたことに心より感謝申し上げます。このたび、今後 10 年間という長期間にわたり、ブラインドサッカーと共に発展させていく革新的なアライアンスが発足したことに非常に興奮しております。今回のパートナーシップが、ブラインドサッカーのみならず、パラスポーツが文化とし定着する礎になることを心より祈念しております。

一般財団法人インターナショナル・ブラインドフットボール・ファウンデーション 代表理事 松崎英吾のコメント

本パートナーシップは、ブラインドサッカーというスポーツを通じて、そのスポーツの振興と、視覚にまつわる社会課題の解決を目指すことになります。それを、日本国内だけでなく、グローバルを視野に入れていることも大きな特徴です。10 年を描き契約したことで、中長期的に、幅広い活動ができる可能性に、ワクワクしています。ここに至るまでにご尽力頂いた皆様に改めて感謝申し上げます。

三者は「“見える”と“見えない”の壁を溶かし 社会を誰もが活躍できる舞台にする」という共通のビジョンを掲げ、インクルージョン社会を実現すべく、さまざまなステークホルダーを巻き込みながら、取り組みを推進してまいります。

Santen(参天製薬株式会社、本社:大阪市)について

Santen は、眼科に特化したスペシャリティ・カンパニーとして、医療用・一般用の医薬品や、医療機器の研究、開発、販売・マーケティング活動を行っています。世界約 60 を超える国・地域で製品を販売しており、国内の医療用眼科薬市場においては No.1 のシェアを有しています。130 年の歴史の中で培われた科学的知見や企業力を活かし、今後も、価値ある製品・サービスの提供を通じ、患者さんや患者さんを愛する人たちを中心として、社会への貢献を果たしてまいります。詳細については、当社ホームページ www.santen.co.jp をご参照ください。

NPO 法人日本ブラインドサッカー協会(JBFA)について

JBFA は、ブラインドサッカー及びロービジョンフットサルを統括する中央競技団体で、「視覚障がい者と健常者が当たり前に関わり合う社会の実現」をビジョンに掲げ活動しています。競技普及・強化活動と並行して、競技特性を活かした健常者向けのダイバーシティ教育プログラムを展開しています。2018 年度朝日ス

スポーツ賞受賞。詳しくは、弊社ホームページ(<http://www.b-soccer.jp>)をご覧ください。

一般財団法人インターナショナル・ブラインドフットボール・ファウンデーション(IBF Foundation)について

IBF Foundation は、「ブラインドサッカーで障がいはなくせる」をビジョンに掲げ、ブラインドサッカーが国際的に広くプレーされるスポーツとなること、および各国の競技団体の組織力向上に貢献することを通じて、世界の視覚障がい者のクオリティ・オブ・ライフを向上させることを目的に、2019 年 1 月 11 日に設立されました。世界保健機関(以下「WHO」)の「国際生活機能分類」に定義される障がいの 3 つの要素「損傷(impairment)」、「活動制限(activity limitation)」、「参加制約(participation restriction)」を、ブラインドサッカーを通じて解決するために活動しており、①中間支援活動②パートナーとの協業③自ら主たる事業者として活動を行う、の 3 つの方法を取っています。

本件に関するお問い合わせ

参天製薬株式会社 コーポレート・コミュニケーショングループ

E-mail: communication@santen.com

電話 : 06-4802-9360

NPO 法人日本ブラインドサッカー協会 広報室

E-mail: media@b-soccer.jp

住所 : 〒169-0073 東京都新宿区百人町 2-21-27 ペアーズビル 3F

GOAL-1

共同体験でそれぞれの個性や強みを理解する

視覚障がい者と聴覚者が、同じフィールドや場で、身体性を伴う体験を共にすることで、言葉だけでは理解できないお互いの強みに気づく、そんな体験をする人を劇的に増やします。



1. ブラインドサッカー国際親善試合  プレイヤーとして、もしくは観て楽しむものとしても、ブラインドサッカーの魅力が伝わりブラインドサッカーというハレの舞台を世界的に盛り上げます。	4. ブラサカ ユースリーダーシップキャンプ  スポーツで求められる、リーダーシップや人としての成長を通じて、「見る」に関する社会課題を解決していく、たくましい未来のリーダー達を育みます。
2. 新たなブラインドサッカー体験  テクノロジーを活用して、リアルではブラインドサッカーができない人も自宅からデジタルで楽しむというこれまでにないブラインドサッカーの体験を創出します。	5. 学校教育文脈へのブラサカ導入  ダイバーシティ&インクルージョンを学ぶ経験として、幅広い教育機関へブラインドサッカーを導入し、違いを持っていることが当たり前のという価値観を伝えます。
3. 視覚障がい者と聴覚者の交流イベント  ブラインドサッカーのフィールドから一歩外に出たところでも、自分の好きなものや興味などを起点に聴覚者と視覚障がい者が交流し新しい友人や仲間ができます。	6. 目に携わる医療関係者とのブラサカ連携  目に携わる医療関係者が福祉への架け橋となりブラインドサッカーへつながることで、いきいきと生活できる患者を増やします。

② 見えるに関するイノベーションを創出する

見えるのイノベーションを通じて、視覚障がい者向けの新たなサービスを創出し、見えるに関する新たな職業を創出すること。

GOAL-2

見えるに関するイノベーションを創出する



視覚障がい者の視点を活かし、視覚障がいにおける社会課題を解決していく新しいサービスを生み出す仕組みをつくりまします。仕組みの中でのサービスづくりの経験や、そこで生まれたサービスにより視覚障がい者の強みを活かせる新たな職業が創出されます。

7. スポーツキャラバンホスピタル  スポーツの現場で、目の検査や目に関する知識を提供し、正しい予防や対応の方法を知る人を増やします。	
8. イノベーションハブ（プロダクト開発/サービス開発）  視覚障がい者と目に携わる企業、NPO、学校、自治体等多様なステークホルダーが協働し、視覚障がい者の視点を活かしながら新たなサービスや職業を次々に創出します。	9. アイケアサロン  目に携わるステークホルダーが連携をしながら、目のトラブルの予防から、検査による早期発見、治療まで一貫して行える場を作り、「治る病気が治らない」を減らします。



③ 視覚障がい者の QOL を向上する

究極的には、社会全体としての視覚障がい者に対する無意識バイアスが無くなり、見える・見えない関係なく社会への参画ができるようになること。

GOAL-3

視覚障がい者のQOLを向上する

視覚障がい者に対する無意識バイアスがなくなり、見える、見えないに関係なく、視覚障がい者が社会参画できる社会を目指します。



Santen

DAIICHI

IBF

APPENDIX 2

長期パートナーシップのビジョンストーリー

”見える”と”見えない”の壁を溶かし 社会を誰もが活躍できる舞台にする。
そんな社会を実現していきます。

VISION



いま、世界で約 22 億人もの方々が視覚障がいを患っているというデータがあります。

それでも視覚障がいは、遠い世界に感じる方もいるかもしれません。しかし晴眼者、いわゆる目が見える人もメガネをかけたり、ドライアイになったりと、もはや目のトラブルは日常になっています。また、歳を重ねると必ず目の機能は衰え、“見えなくなる”“見えにくい”という状態にもなるのです。緑内障や白内障など、生活に深刻な影響を与える問題を将来抱える可能性もあり、実は多様な“見えない”“見えにくい”という問題は身の回りに存在しているのです。

このように、私たちは生きている間、“見えない”“見えにくい”と常に隣り合わせともいえるでしょう。私たちの社会は見えていることを前提にシステムや仕組みが作られています、見えている人はこのことに、なかなか気がつきません。

見えていることを前提にしていることとして、例えば

- ・音声案内や点字のない重要な書類や手続き、案内など
- ・相手が視覚障がい者である可能性を考えもせずに、道を譲り合わないこと
- ・視覚障がい者になると就労・資格取得の機会が極めて限定的であること
- ・自治体・民間での視覚障がい者への支援の仕組みがバラバラで、必要な情報へのアクセスが難しいこと

加えて世界を見渡すと

- ・眼科医療基盤が未整備であり本来は治る目の病気が早期治療しないことで悪化すること
 - ・視覚障がい者に対する支援の仕組みが不十分であり社会経済的に困窮してしまうこと
 - ・近視等の屈折異常であっても十分な矯正ができず学習・就労に大きな影響を及ぼすこと
- などさらに多くの課題が存在します。

もし見えにくくなったら、心理的にも物理的にも生きる上で負担がかかってしまう。私たちはそんな社会で生きています。

これを引き起こしているのは、複雑に絡み合った課題です。

晴眼者の目線からすると、

『見えることを前提に世界を作ってしまったことが当たり前になっている。』

『自分とは違う人に対して持つ無意識下のバイアスが消えない』

など、課題の存在に気づく機会が少ないのが現状です。

一方、視覚障がい者の目線からすると、

『ハンデを感じて、仕事の選択肢が少ない』

『心理的、物理的な不安があり自由に外に出ていけない』

という切実な課題を抱えています、声を上げにくい課題でもあります。

このような、晴眼者、視覚障がい者の間でそれぞれ起こってしまう課題があり、それはお互いがお互いを見えていないということが根本的な課題だと考えます。

しかし Santen、JBFA、IBF Foundation が、パートナーシップを組むことでこの社会課題の解決に視覚障がい者と手を携え、互いのフィールドに架け橋を架けることができると考えました。

その入り口が、ブラインドサッカー/ロービジョンフットサルです。

晴眼者と視覚障がい者が遠慮なく体で闘い、切磋琢磨し、敬意を表し、本気で1点をもぎ取りに行く。そんなフィジカルとソウルをぶつけ合うスポーツのフィールドは、個の違いと融合をさらに高い次元へ持っていく、大きく広い可能性に満ちています。

そして同時に思いました。このフィールドは、現代の視覚情報に頼っている現状を打破し、「新たな“見える”を創る」という新しい体験を創出できる、可能性に満ちたフィールドにもなりうると。

私たちはブラインドサッカー/ロービジョンフットサルというスポーツを出発点にすることで、視覚障がい者にとってのスポーツ、新たな職業、イノベーションへの参画など多様な社会参画への架け橋となります。

具体的には、ブラインドサッカー/ロービジョンフットサルという視覚障がい者及び晴眼者がお互いの強みを理解し合う身体的体験の場を全国へ、世界へ、そしてバーチャル空間へと広げていきます。スポーツという場を通じて、溶け合う空間は無意識バイアスを持った人を減らしていくことができます。

次に、

視覚障がい者に関係のある企業と協働してイノベーションを起こすラボを設立します。

民間企業や NPO、自治体、学校などの協働に、視覚障がい者の視点を入れることで、まったく新しいサービスを発想することも可能です。それは視覚障がい者の社会参画の機会を増やすことにも繋がります。ブラインドサッカー/ロービジョンフットサルのフィールドは、新たなイノベーションの実験場ともなります。

そこで生まれた新たなサービスにより、視覚障がい者がこれまでアクセスできなかったサービスにアクセスできる幅を拡大したり、視覚障がい者だからこそ強みを発揮できる新たな職業を生んでいくことを目指します。

これらの活動を通じて、両者が混じり合い、切磋琢磨しあえる場を増やしていくことができると信じています。

具体的には、以下の3つを実現していきます。

- ・共同体験でそれぞれの個性や強みを理解する

ブラインドサッカー/ロービジョンフットサルによる共同体験の場を拡張し、視覚障がいを強みの違いと認知した人を劇的に増やすこと。

- ・見えるに関するイノベーションを創出する

見えるのイノベーションを通じて、視覚障がい者向けの
新たなサービスを創出し、見えるに関する新たな職業を創出すること。

- ・視覚障がい者の QOL を向上する

究極的には、社会全体としての視覚障がい者に対する無意識バイアスが無くなり、
見える・見えない関係なく社会への参画ができるようになること。

“見える”の違いこそ、多くの可能性の光。

視覚障がい者の眼差しを活かし、

晴眼者が気付かぬうちに作ってしまった視覚障がい者との壁、

その壁が溶けた晴眼者と視覚障がい者が共生する世界を、視覚障がい者と共に作っていく。

”見える”と”見えない”の壁を溶かし 社会を誰もが活躍できる舞台にする。

そんな社会を実現していきます。